ひょうたんいけ

桜台小　学校だより
令和４年１２月１２日
第４６号

先日３年生が、四日市市内のさまざまな施設へ社会見学に出かけました。小学校に入学して、初めてバスに乗って出かけていく機会だったので、出発するときには本当にうれしそうな顔をしていました。社会見学から帰った子どもに、ある保護者の方が「きょうは何が一番楽しかった？」と問いかけられたそうです。子どもは「バスも楽しかったし、見学も楽しかったし、でも一番はみんなと一緒に食べたお弁当の時間かなぁ」と答えたそうです。

そういえば、この３年生は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、入学間もない４月、５月が臨時休校から始まった学年の子どもたちたちでした。当時は「感染すると命を失う事にもつながり、大変なことになる」という社会意識から、できるだけ人との接触、三密を避けようと、地域や学校ではさまざまな行事が中止や縮小となりました。３年生にとって、今回の社会見学が初めてみんなと一緒にお弁当を広げて食べる機会となったのでした。

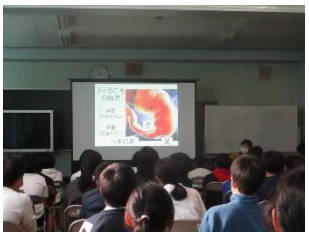
文部科学省から給食時の黙食が緩和され『座席配置の工夫や適切な喚起の確保等の措置を講じた上で、給食の時間において、児童の間で会話を行うことも可能』という通知が出されました。四日市市内では、現在学級閉鎖、学年閉鎖となっている学級も多く(本校も２年１組が学級閉鎖中)、まだまだ、感染拡大が進行していて先が見通せない状況となっています。感染症対策を取ることはこれまで通り大切ですが、少しでも子どもたちが笑顔で、会話を楽しめる時間が増えていくことを願っています。

社会見学に出かけました。（３年生）

８日(木)、３年生が社会見学に出かけました。「わたしたちのまち、四日市市を知ろう！」というテーマで「四日市港ポートビル（うみてらす１４)」「四日市市中消防署」「四日市市茶業振興センター」の３つを中心に見学し、職員の方から話を聞いたり、施設を見せてもらったりしました。四日市港ポートビルの１４階からは四日市港が一望でき、輸出車が船に積み込まれる様子や輸出入のコンテナが運び込まれる様子がよく見えました。四日市市中消防署では、消防士が消防服に着替えるまでにどれだけの時間がかかるのかを実際にやってみて体験をしました。消防士の皆さんが寝泊まりしている部屋や入浴室、トレーニングする部屋や消防車の設備も見せていただきました。はしご車がどれだけ高いところまであがっていけるのか、３年１組の担任の先生が実際にはしご車に乗って、消防士さんと一緒に高く昇っていきました。子どもたちは「キャーキャー」と言いながら、その様子を眺めていました。四日市市茶業振興センターでは、お茶の収穫の時期やどうやってお茶の葉を収穫するのかを説明してもらいました。実際にお茶の木の一部もいただきました。

３年生は、初めてのバスに乗っての社会見学でした。**話をしていただく職員の方やバスの運転手、訪問先で出会う方々に大きな声であいさつができていました。**室外で車が通ったり、場所が広くて声が届きにくかったりしたこともあったと思いますが、**しっかりと話を聞いて質問している子が多かったです。話をしている職員の方に近づいて話を聞こうとしている人もいました。**４年生でも社会見学があり、５年生では自然教室、６年生では修学旅行が控えています。**その場の状況に応じて、どうしたらしっかりと話が聞けるのか、一人ひとりが考えて行動できるようになることが大切です。**今回の経験を、上級学年へと進級したときに、活(い)かしていってほしいと思います。

性・生命に関する学習をしました。（６年生）



９日(金)の５，６限目に、６年生は「性・生命に関する学習」をしました。いのちの出前講座として、『助産所ここから』の助産師の方に来ていただき、お話をしていただきました。パワーポイントを使って、前半は、助産師の仕事、ひとつの命が誕生するまでの１０ヶ月間の状態、受精から胎児までの成長、赤ちゃんの成長の様子などについて語っていただき、命はかけがえのないものであることを子どもたちに伝えていただきました。後半は、思春期の心と体の変化、健康に成長するために大切なこと（睡眠、インターネットトラブルに巻き込まれないようにすること)、などについて語っていただきました。**人はどうして生まれてくるの？⇒「幸せになるため」**というメッセージと、最後に「**ささいなことでも良いので、皆さんも周りの人を幸せにする仕事や役割を持ってください**」というメッセージをいただきました。**１人ひとりは、この世界に存在するだけで奇跡であり、選ばれた大切な命である**こと、**たくさんの人に支えられ選ばれた、唯一無二(ゆいいつむに⇒同じものを他に求めても得られないほど、貴重なこと)の命である**こと、を子どもたちはかみしめることができたことと思います。出前講座が終わってから、助産師さんを囲み、身体の悩みや将来に向けて考えていること、などを話している子もいました。　　（文責　北住 昌文）